

絆 深まる米贈り

被災者に 320キロ 訪問 南三陸

明石西高生

県立明石西高校インターアクトクラブの生徒がこのほど、宮城県南三陸町を訪れ、自分たちで田植えや稲刈りを行って栽培した米3

東日本大震災

仮設住宅の代表者（左）に米を寄贈する明石西高校インターアクトクラブの生徒（右）。いずれも宮城県南三陸町で（井上勇教諭提供）



2013年を仮設住宅に住む東日本大震災被災者に贈った。

同クラブは2011

年3月の震災発生以降、東北被災地との交流を続けており、東北訪問は11回目、米の寄贈は3回目となる。今回は担当の井上勇教諭

と13年の生徒9人が、昨年12月24日夜に明石市二見町西二見の同校をバスで出発し、福島県で同県立磐城農業高校の生徒も合流。25日に南三陸町の平成の森にある仮設住宅で被災者とボランティアに米を寄贈し、クリスマス会で交流した。26、27日には養殖用ホタテやカキの貝殻の汚れ落としなどの漁業支援や



ホタテの貝殻の汚れを落とす明石西高校インターアクトクラブの生徒ら

のがうれしかったと話した。

【駒崎秀樹】

2015年1月7日(水)

毎日新聞 朝刊